広報にしはら

発行所
西原村役場
電話(09894)⑤-5011～3
印刷
西原印刷

第四回 植樹祭―緑の村へ
～10月1日に愛和保育園で～

宮平村長が先頭に立って植樹祭

村主催の植樹祭をはじめてから今年で四回目。

今年は、去る十月一日午前十時から本村字小那覇にある社会福祉法人、愛和保育園（久手堅愛子園長）で実施。宮平村長はじめ県や県緑化推進協議会、そして村民五〇人余が参加して行われました。

今年四月から開園した愛和保育園は村内で二番目の社会福祉法人保育園で、小那覇地域にも保育園がほしい、という村民の声に答えるもので、鉄筋コンクリート造りの超近代的な、設備のととのった保育園。

すでに定員いっぱいの九〇名の保育が行われ、元気いっぱいの園児たちの姿が見られる。

その日、植樹祭であいさつに立った久手堅園長も、子供たちが緑の小かげの下で、自然に親しむことができることになり、園児と一緒に、今回の植樹祭を喜んでいると話しておられた。

約二時間余で園内に、ホルトの木や、ハイビスカス、サンダンカ、久米島ツゲ、アレカヤシ等十三種一一三本の木が植えられ、たちまちにして、緑いっぱいの園に早変り。植えられた木々に、園児たちも、「ボクタチもヤルゾ」と水をかけたり、土を盛ったりで楽しい風景でした。又、その日芝生も植えられ、参加者の見事な共同作業ぶりで、緑のジュータンの出来上がりに園児たちはいっそう嬉しそうでした。

来年からは園内でセミの声を聴き、小鳥のさえずりが聴かれることでしょう。

きれいな芝生もこの通り…

村の世帯・人口
（昭和52年9月末日現在）

世帯数	3,475
人口	15,097
男	7,670
女	7,427

9月の人口移動

出生	23	死亡	1
転入	76	転出	84
婚姻	8	離婚	3

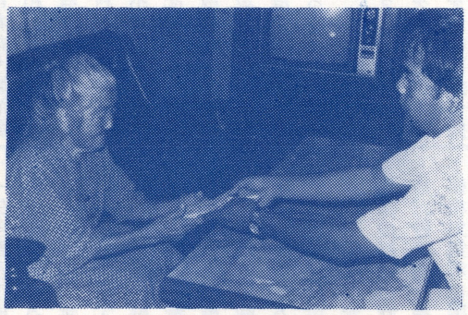
米寿おめでとうございます

今年、村で米寿を迎えられた方は十一名で、村及び村社会福祉協議会、村老人クラブから記念品が送られました。

米寿を迎えられた方々を御紹介します。（敬称を略致します）。

宮城太郎（翁長五三八）、屋良ウト（上原二四八）、大城ツル（内間十六）、玉那覇栄政（小那覇二一二）、当山樽（兼久一〇〇の三）、小橋川ウト（与那城六三）、与那城ウタ（桃原七八）、平敷ウシ（我謝一九四）、城間カミ（翁長四七四）、祖堅方範（我謝一〇四）、玉那覇ウサ（小波津六二五）

80才以上の高齢者の方々に
村から敬老年金――168名



「ますますお元気で…」

九月十五日の敬老の日を前に村から、村内の八〇才以上の高齢者の方々一六八名に永年のご苦労に報いるため敬老年金が支給されました。

高齢者の方々を字別に見ると次の通りです。

幸地―十名、棚原―九名、徳佐田―一名、森川―一名、上原―三名、翁長―八名、呉屋―二名、津花波―七名、小橋川―六名、内間―五名、掛保久―二名、嘉手苅―三名、小那覇―十三名、兼久―十五名、与那城―十七名、我謝―三十九名、安室―二名、桃原―六名、池田―七名、小波津―十一名、

なお、九〇才以上の方々には県からの敬老見舞金が支給され、いっそうの御健康を…と激励しました。

九〇才以上の方々を次に御紹介致します（敬称を略致します）。

城間ウシ（九二才、幸地）
安座間喜純（九〇才、棚原）
伊波ウシ（九二才、棚原）
城間カマ（九〇才、棚原）
稲福マカト（九一才、上原）
泉川カメ（九三才、翁長）
大城カメ（九四才、津花波）
大城ウシ（九〇才、内間）
大城喜太（九七才、内間）
呉屋ウシ（九一才、掛保久）
伊佐ツル（九一才、与那城）
西平カメ（九〇才、与那城）
宮平マツ（九七才、兼久）
津波古オト（九五才、与那城）
新垣カマ（九三才、我謝）
安里マカト（九五才、我謝）
小橋川カメ（九〇才、我謝）
安谷屋長貞（九二才、我謝）
小波津ウシ（九〇才、小波津）

商工会だより

※年末調整についての説明会が十一月十一日午後一時三〇分から役場ホールで行なわれます。

※わかりやすい祖税教室が十一月十四日（月）午後一時から三時三〇分まで役場ホールに於いて催されます。

当月は青色申告会から相談員が来訪しますので個人的な税務相談が気軽にうけられますからすすんで受講して下さい。

⊙源泉所得税の納期の特例の制度について

常時十人以下の従業員を雇用している事業所を対象に源泉所得税の納期の特例が認められる制度があります。北那覇税務署にその旨を申請すれば従業員の給料から差し引いた税金の預り分に限り七月十日と翌年の一月十日に税務署へ納めれば良いことになっています。

毎月いちいち税務署まで行って納税する必要がなくなりますから大変便利です。

⊙職員招介

去る九月一日から記帳指導員として我謝出身の比嘉陽子さんが商工会に勤務しました。

始めて帳簿をつけたい方や現在帳簿記帳をなさる上で分りにくいことがありましたらお気軽にご連絡下さい。

⊙地域に夢を企業に繁栄を合言葉に買物は村内の商工会員を優先に利用しましょう。

西原村商工会事務局
西原村役場内（電五―五〇一三）

使う火を　消すまで　はなすな目と心　秋の火災予防週間、11月26日～12月2日まで

第八回議会定例会終る

去る九月二十七日から二十九日にかけて、三日間の会期で昭和五十二年度第八回議会定例会が開かれました。

今議会に提出された案件は、議案八件、認定三件、決議五件で、一般質問も行われました。

各案件の審議結果は、次の通りです。

議会より

●議案第一四五号―小波津川準用河川改修工事請負契約締結について…原案通り可決

この工事は、小波津川、三善養殖場から上流へ一五三メートルで、大久組㈱が十月一日から来年の一月三十一日の工期で落札。契約金額は一千三百六〇万円。

●議案第一四六号―翁長～幸地線道路改良工事請負契約締結について…原案通り可決

この工事は、県道三八号線から西原の塔間、三三〇メートルで、㈲丸新重機が、契約金額一千八百四〇万円で落札。工期は十月一日から来年の一月三十一日まで。

●議案第一四七号―兼久川準用河川改修工事請負契約締結について…原案通り可決

この工事は、国道三二九号線から下流へ一四五メートルで、三善ハウス工業㈱が一千三百七〇万円で落札。工期は十月一日から来年の一月三十一日まで。

●議案第一五二号―我謝地内都市下水路工事請負契約の締結について…原案通り可決

この工事は、西原印刷横から東洋コンクリート間、四三六メートルで、東洋建設が二千万円で落札。工期は十月四日から来年の一月三十一日まで。

●議案第一五一号―昭和五十二年度西原村一般会計補正予算議決について…原案通り可決

これは、才入才出予算の総額にそれぞれ、七千二百八十三万五千円を追加し、才入才出の予算の総額を、それぞれ十五億九千七百十万一千円となりました。

才入増のほとんどが地方交付税の増で、六千八百十八万二千円、国庫支出金、二百四十三万九千円県支出金、九十二万四千円、諸収入が百二十九万円となっています。

才出では、土木費に三千八百万円で、主な事業は、道路側溝舗装工事―与那城～小波津線、延長四四六メートル、RBC坂田ハイツ～徳佐田線、延長四〇〇メートル、我謝～与那原線、延長二五〇メートル、旧試験場跡、延長一八〇メートル、排水改修、西原中学校内延長一〇〇メートル。教育費に千三百十八万四千円で、主な事業は、学校内外線工事、西原幼稚園々舎建設費追加。総務費に一千百七十九万円で、主なものは、市町村退職組合加算金、村有地測量委託料、旧事務担任者への慰労金。農林水産業費に三百六十六万九千円で、さとうきび苗圃設費、農業振興地域整備事業。民生費、需用費関係五十五万三千円。災害復旧費に百万円。予備費に四百六十三万九千円となっています。

●議案第一五〇号―昭和五十二年度国民健康保険特別会計補正予算議決について…原案通り可決

これによって才入才出の予算総額、二億百四万三千円に、それぞれ二千八百十七万六千円を追加して、才入才出の予算の総額をそれぞれ、二億二千九百二十一万九千円とすることが承認されました。

●議案第一四八号―西原村災害弔慰金の支給及び災害援護資金の貸付けに関する条例の一部改正について…原案通り可決

これで従来災害弔慰金が死亡した者一人当り五〇万円となっていたものが、生計維持者が死亡の場合は一五〇万円、その他の場合は七十五万円に改正されました。

又、災害援護資金の貸付対象者の貸付額が改正され、貸付対象者の拡大、貸付額の増額がなされました。

●議案第一四九号―西原村国民健康保険税条例の一部を改正について…原案通り可決

これで課税最高限度額が十五万円から十七万円に、税率が百分の三、一六から百分の三、六二に、被保険者の均等割額が一人当たり二、四四五円から三、一三二円に世帯割が四、〇九六円から五、三三八円に等の改正がなされました。

●認定第十二号―昭和五十一年度国民健康保険特別会計才入才出決算認定について…認定

●認定第十号―昭和五十一年度西原村水道事業会計決算の認定について…認定

●認定第十一号―昭和五十一年度西原村一般会計決算の認定について…認定

●決議第二十六号―南西石油の貯油タンク増設計画に関する要請決議について…決議

●決議第二十七号―昭和五十二年産さとうきび最低生産者価格引上げ等に関する要請決議について…決議

●決議第二十八号―老令者医療保障の抜本的改革に関する要請決議…決議

●決議第二九号―南西石油の貯油タンク増設計画に関する抗議決議について…決議

●決議第三〇号―朝鮮の自主的平和統一の促進に関する要請決議について…決議

南西石油の貯油タンク増設計画に関する要請決議

今回の南西石油の貯油タンク増設計画に対して、我々村議会は遺憾の意を表明するものである。

南西石油は操業以来、僅か五ケ年余の間に、再三にわたり原油流出事故を起し、昭和五一年六月六月には、大惨事になりかねない火災事故をおこし、村民はもとより、県民に対して不安と恐怖を与えたことは、まだ記憶に新しい。

かかる一連の事故は、安全管理等のミスによる人災であり、今後絶対に事故は起らないという保障は何人も断言できるものではない。

今回の貯油タンクの増設計画は、益々住民感情を刺激し、地域住民に不安と恐怖をつのらせる要因になると思料されるので、その増設を絶対に許可しないよう強く要請する。

右決議する。

昭和五二年九月二九日

西原村議会

昭和五二年産さとうきび最低生産者価格引上げ等に関する要請決議

さとうきびは、沖縄県農業の生命作物であり、農家経済の基幹収入源である。また糖業は、県経済の基幹的役割を担い、国内甘味資源の供給に大きな役割を果してきている。

ところが本県の農業経営は、狭小なうえに台風、旱魃等、きわめて劣悪な自然条件にあるほか、交易的にも不利な条件下にある。

それに加えて、国の定めるさとうきび最低生産者価格はきわめて低く抑えられてきており、今なお、さとうきび作農家の経営と生活は苦しい状況にある。よって、生産農家が安心して生産に従事し、本県のさとうきび生産振興が図られるよう、左記事項の実現を強く要請する。

記

一、昭和五二年産さとうきび最低生産者価格は、生産費並びに所得を補償し、かつ再生産が確保されるよう、トン当り二四、〇〇〇円以上とすること。

二、さとうきび最低生産者価格を「生産費及び所得補償方式」によって算定するよう、砂糖の価格安定等に関する法律第二一条第一項を改正すること。

三、土地基盤の整備、原々種農場の設置による優良種苗の増殖普及、高性能機械の開発普及並びに病害虫の防除等さとうきび生産振興に対する施策を一層強化すること。

四、砂糖価格の安定、国内産糖製造業の経営の安定をはかるため、砂糖需給調整の強化、再販価格対策等に関する適切な措置を講ずること。

五、含密糖に対する助成措置を継続するとともに、国内産含密糖の優先消化をはかるための需給調整を強化すること。又、早急に法制度化による長期安定的な保護措置を講ずること。

六、甘味資源審議会に最低生産者価格並びに法の定める重要な指標についての調査審議機能を附与すること。

昭和五二年九月二九日

沖縄県西原村議会

今製糖期前の各字道路補修始まる

―建設課―

村では、昭和五十二年度製糖期前の各字道路補修を十月三日から十二月二十三日にかけて別表の通り実施することになりました。

この道路補修は、毎年製糖期前に村が行っているもの。

村建設課では、実施に当り、次の点の御協力お願いをしております。

①別表の日程通り補修は行いますが、雨天、その他の事情がある場合は変更します。その際の日程については後日調整します。

②各区の事務担任者が補修予定道路を計画し村との調整を行います。各区の事務担任者は当日は常駐し現場での指示をよろしくお願いします。

③特に農道については、雑草、雑木等繁茂している所があり、石紛の敷ならし作業ができませんので共同作業等を実施し道路補修が円滑に行われるよう事前の準備を各区でお願いします。

④日程の変更等希望する場合は、事前に連絡して下さい。

昭和51年度
製糖期前の各字別道路補修予定表

月日	曜	字名	月日	曜	字名	月日	曜	字名
10.3	月	幸地	11.8	火	小橋川	12.15	木	我謝
4	火	〃	9	水	〃	16	金	〃
5	水	〃	14	月	内間	19	月	安室
6	木	〃	15	火	〃	20	火	〃
11	火	棚原	16	水	〃	21	水	桃原
12	水	〃	17	木	掛保久	22	木	池田
13	木	〃	18	金	〃	23	金	〃
14	金	徳佐田	21	月	嘉手苅			
17	月	森川	24	木	崎原			
18	火	上原	28	月	仲伊保			
19	水	〃	29	火	〃			
20	木	〃	30	水	伊保浜			
24	月	翁長	12.1	木	〃			
25	火	〃	5	月	小那覇			
26	水	小波津	6	火	〃			
27	木	〃	7	水	〃			
28	金	〃	8	木	兼久			
31	月	呉屋	9	金	〃			
11.1	火	〃	12	月	与那城			
2	水	津花波	13	火	〃			
7	月	小橋川	14	水	我謝			

住所には郵便番号もお忘れなく，西原村は903－01です

第一回 村芸能文化祭

正しい文化の継承を…

十一月三日【木】
午後一時
西原中学校体育館

出演ー長者の大主（幸地）
古典音楽合唱（寿会）
踊り天川（幸地）
嘉手久の縁（内間）
孝行口説（幸地）
稲シリ節（棚原）
獅子舞（小波津）
松竹梅（兼久）
組踊り（父子忠臣、小波津）
特別出演ー喜納琉舞研究所、宮城琉舞研究所、空手、比嘉道場

←楽しく芸能の伝承を…

村立坂田小学校 創立三十一周年記念

式典でにぎわう

昭和二十一年の開校以来、年々発展をとげてきた村立坂田小学校が今年で三十一周年を迎え、去る十月一日午後二時から同校体育館で創立三十一周年式典が行われました。

式典には同校の五年生以上の児童、及び同校PTAの外村内外の関係者約五〇〇人が出席しました。

式典であいさつに立った知念清校長は「創立三十一周年という本校の歴史をふりかえり、諸先輩に感謝するとともに、本校の教育目標である「強く」「かしこく」「やさしい」坂田の金太郎をめざす決意を新たにしよう」と話されました。

宮平村長も「先生方はじめ生徒のみなさん、御父兄が一体となって、ますますすばらしい学園に発展されるように…」と激励の言葉を送りました。

式典の後、三十一周年事業記念として同校PTA、同窓生、その他の協力及び村予算等で待望の校内テレビ放送システムが完成。

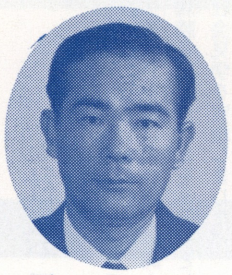
式典に向けて同校が企画した特別番組「坂田小学校の歩み」を放映し、その施設のすばらしさを参観者に披露しました。

テレビ放映終了後、記念パーティーに移り、余興として同校PTA婦人部及び同校合唱団のすばらしいコーラス等を楽しみながら三十一周年の数多い想い出話しに花が咲きました。

31周年式典より

創立三十一周年を祝う

学校長　知念　清



本日は本校創立三一周年の記念式を行ないますにあたり、来賓の方々ならびにPTAの皆様多数ご臨席のもとにこのように盛大に挙行できますことは、このうえないよろこびであり厚く感謝申し上げます。

本校の沿革誌をひもときますと、本校は昭和二一年四月三〇日、西原村西初等学校創立、初代校長外間昭宏氏発令、同年六月一二日西原東初等学校（現西原小学校敷地）において開校、児童数五〇九名、教職員一六名、同年九月一三日、敷地の選定と仮校舎の完成とともに現在地に移転完了し、校名を坂田初等学校と改称すと記してあります。

開校当時は沖縄戦の戦禍の中を四散した村民が帰村し、新しい村づくりへ一歩を踏み出した時期であります。食うに食なく、住むに家なしという生活の基盤が確立されていない苦しい時代でした。

そのころ、政治優先か、教育優先かと論議されたことを記憶しております。このようななかにありながら教育こそ郷土社会百年の計として教育再建へとスタートしたのであります。

創立当時、たいへん困難な事情をのりこえ、敷地の選定、校舎の建築が進められ、青空教室からかやぶき教室、そして赤瓦からコンクリート校舎へと建築が進められ、昭和四五年には待望の体育館が建設される等時代の変遷を経て充実の一途をたどって参りました。当局はじめ関係の方々のご苦労はさぞかしたいへんなものであったと推察いたします。

また、ほとんど無一物の状態から学校の施設設備の充実については、物心両面から惜しみなく援助くださいましたPTAや村民の深いご理解とご協力さらに関係当局の終始一貫した絶大なご努力を決して忘れることなく、本校の続く限り語り伝えたいものであります。

このように学校、父兄、地域社会の三者が互に立場を理解しあい、調和のとれた協力体制にある姿は創立以来の本校の特色であります。児童の皆さんもよくこれにこたえて、よい伝統をうみだしたいものであります。

昭和二六年、沖縄教育後援連合会（現県PTA連の前身）より表彰、昭和三一年、経営面の優秀校として文教局（現県教育庁）より表彰、続いて昭和三九年第六回全琉緑化大会で表彰の栄誉に浴しております。また教育研究活動においても指定研究校として数々の成果をあげ、県の教育振興に大きく寄与いたしております。このような成果も、この力強い協力体制と皆さんの努力によるものと思います。

卒業生は創立以来二三五三名を数え、教育界、政界、経済界等に多くの人材を輩出し、村内外の第一線で活躍しており、まことに頼もしい限りであり、今さらながら三十一年の歴史の重みをしみじみと感じさせられます。

本校をとりまく環境を見ますと、これまでの純農村から人口の急激な増加により都市的色彩を強め、また、西原高校の設立、琉大の移転に伴ない、学園都市としてその様相も大きく変るものと思われます。

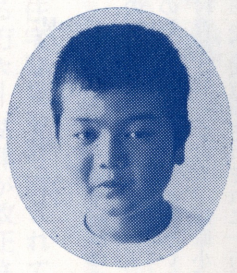
このようなときにあたり、PTAを中心に村当局の深いご理解とさらに学校を愛し強い関心を寄せられた村民が校内テレビ放送システムを三十一周年記念事業として設置していただきましたことは、本校の飛躍的発展を期するうえから画期的なことであり、衷心より感謝申し上げるとともに皆様方の心を心として本校教育の振興に一層努力を傾注する所存であります。

これらもろもろのことを織りこんで創立三十一周年を迎えたのでありますが、きょうのよき日を迎えるにあたり、児童の皆さんに一言したい。

それは、三十一周年を記念する真の意義はどこにあるかをよく考えてみる必要があります。私たちは創立三十一周年という本校の歴史をふりかえり、諸先輩に感謝するとともに、本校の教育目標である「強く」「かしこく」「やさしい」坂田の金太郎をめざす決意を新たにすることこそ、三十一周年を記念する真の意義があると思います。伝統ある坂田小学校に新しい歴史をつくる第一歩を強く踏みだしてください。

よろこびのことば

児童会長　石垣伸吾



今日は私たちの学校の創立三十一周年の式典をあげるにあって、うれしさでいっぱいです。

私たちの学校、坂田小学校は、今から三十一年前、終戦のよく年に現在の場所にできたそうですが、現在のようなりっぱな学校になるまでには、多くのせんぱいや先生方、父兄の方々のご苦労があったと思います。

私たちの学校、坂田小学校は西原村の翁長にあり、県道三八号線に面しています。周囲には、翁長、幸地、徳佐田、棚原、森川、千原、上原の村々があり、すぐとなりには西原高校があります。また、しょう来、琉球大学も近くに移ってくるということです。

運動場や教室から太平洋がながめられ、けしきもたいへんすばらしいです。

坂田小学校は、今年、新しい三階建ての校舎が完成し、校門も東側に新しくでき、広い駐車場もできました。体育館もあり、さらに三十一周年を記念して校内テレビ放送システムもできました。

運動場がもう少し広げられたらいいと思います。

学校の近くに、坂田ハイツや翁長団地ができたせいか、ぼくが転校してきたころの生徒数三百八十↙

賀年はがきの発売は11月7日(月)ですお手紙の受取人,差出

↙四人に比べると今ではずいぶん増えて五百九十一人となっています。毎年五〇人ぐらいの転校生があり、生徒数が増えたそうです。

私たちの学校には、音楽、野球、卓球、球技、バトミントン、バトン、書道などのクラブがあり、村にはスポーツ少年団もあります。

毎年、父兄もいっしょになって、運動会や学習発表会もあります。青空という作文集も年に一回発行しています。

十一月には六年生全員で初めての修学旅行も計画されていますのでとても楽しみにしています。

校長先生、教頭先生をはじめ二十五人の先生方がいろいろと教えて下さいます。坂田小学校の合言葉は「強い子、かしこい子、やさしい子」です。

過去にも、そしてこれからも、たくさんの人々がこの学校で勉強し、遊び、卒業していくことかと思いますが、ぼくたちも、この合言葉である学校目標を目ざして、ますますすぼらしい歴史をきずきあげていきたいと思います。

村畜産共進会にぎわう

―牛二十七頭、豚三〇頭が出品

去る十月八日に、村役場裏広場で昭和五十二年度、村畜産共進会が開かれました。

年々、質的な高まりを見せる村畜産共進会は村内外から多くの参観者がつめかけにぎわいました。

今年の出品は、牛が二十七頭、豚が三〇頭。

午前十時頃までに集められた牛、豚の審査は、それぞれ三人の審査員によって厳しい審査が行われました。

その結果、牛、豚、各部門での入賞者が次の通り決まりました。

なお、入賞に輝いた牛、豚は、郡大会に出品されます。

▲肥育牛―雌の部

優等―宮城良市（小橋川、四七）一等―翁長太郎（幸地、七六二）崎原盛彦（兼久、一〇〇）、二等―喜屋武善吉（池田、八二）、与那嶺善太郎（幸地、二五四）、翁長俊雄（幸地、六四七）▲肥育牛―雄（去勢牛）の部優等―宮城正勇（小橋川、三八）一等―翁長俊雄（幸地、六四七）

▲肥育牛―若雄（去勢牛）の部

優等―宮城正勇（小橋川、三八）一等―外間亀吉（幸地、二二一）二等―与那嶺正貞（幸地、七四四）喜屋武栄光（池田、七八）

にぎわいを見せる共進会

▲繁殖牛―経産の部

優等―喜屋武栄光（池田、七八）一等―宮城正勇（小橋川、三八）二等―宮城良市（小橋川、四七）

▲繁殖牛―未経産

優等―喜屋武栄光（池田、七八）一等―与那嶺栄幸（幸地、二一三）

▲繁殖牛―候補牛

優等―城間三郎（翁長、一六〇）一等―与那嶺善太郎（幸地、二五四）、二等―与那嶺善太郎（幸地、二五四）

▲未経産豚

優等―城間正保（兼久、一〇一）一等―安座間喜永（森川、一六〇）、二等―小波津三郎（小波津、四一）呉屋清（呉屋、五二）、泉川寛弘（上原、一六九）、新垣正一（兼久、一二三）、呉屋孝三（呉屋、一〇六）

▲経産豚の部

優等―新里正雄（棚原、一七九）一等―野国昌敏（池田、九一）、小波津三郎（小波津、四一）、二等―城間正保（兼久、一〇一）、石原昌英（森川、一八〇）、棚原盛仁（森川、六七）、泉川寛弘（上原、一六九）、安座間喜永（森川、一六〇）

▲若令雄豚の部

優等―城間正保（兼久、一〇一）一等―新里正雄（棚原、一七九）二等―棚原三郎（森川、一三六）

▲壮令雄豚の部

優等―安座間喜永（森川、一六〇）、一等城間敏夫（我謝二四一）、二等―城間正保（兼久、一〇一）

また、副賞として次の通り決まりました。

●県農林水産部長賞―経産豚の部新里正雄（棚原）

●県畜産会々長賞―繁殖牛の経産の部―喜屋武栄光（池田）

●村農協長賞―肥育牛の雌の部―宮城良市（小橋川）、壮令雄豚の部―安座間喜永（森川）

●村農業委員会々長賞―未経産豚の部―城間正保（兼久）、繁殖牛の経産の部―喜屋武栄光（池田）

村婦人会、見聞を高める

社会見学実施――

村婦人会（大城静子会長）では去る九月十六日に会員の見聞と、親睦を高めることをネライとして社会見学を実施しました。

見学には、昨年の三倍に近い三〇〇人余が参加。

村内のオキコ製パン工場はじめ那覇市首里にある厚生園、与儀にある県知事公舎、与那原町板良敷にある東部清掃施設組合ごみ処理工場、そして最後に村内の焼き物工場―琉信産業と変化と内容に富んだ見学でした。

厚生園では、婦人会員の手づくりのオムツを、寝たきり老人の方々に…とプレゼントをして喜ばれました。

自らを高める婦人会は、村の将来の進歩発展を約束するもの…と言えそうです。見学終了後、疲れもみせずにその日の反省をしながら帰路につく婦人会員は、いっそうたくましくみえました。

第十回南部地区消防操法競技大会―玉城村で開催

去る九月三〇日、午後一時から玉城村奥武運動場で南部消防協議会主催の第十回南部地区消防操法競技大会が開かれました。

競技には東部消防組合はじめ五チームが参加し、ポンプ車操法、着装競技、五種目に覇を競いました。

東部消防組合西原分遣署の団員も小型ポンプ操法の部で健斗しました。

何かに役立てて下さい

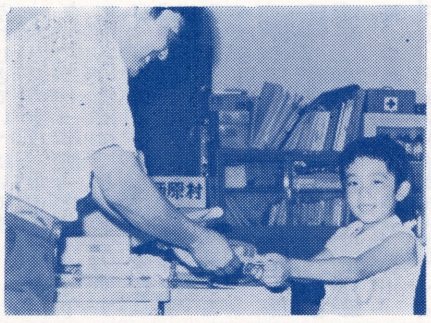
向井勇夫君が村社協を訪問（坂田幼稚園）

ひろったお金の落し主が現われず、与那原警察署から「君のものだからね」と言われた少年が、村内の何かに役立てて下さいと、去る九月二十九日に村社会福祉協議会をおとずれました。

その心やさしい少年は、向井勇夫（ゆきお）君で、坂田幼稚園の園児。

その善意の心を受け取った村社会福祉協議会の呉屋厚雄事務局長も向井君の嬉しい申し出に心から感謝し、是非、村内のいろいろと不自由な人々の為に役立てたいとのことでした。

その日、向井君、やっと拾ったお金が村民の為に役立つと、ホッとした表情で、晴れた空のようにさわやかでした。向井君の暖かい気持に拍手を…。



▶村社協をおとずれた向井君「ありがとう」

芳志御礼

去る九月二十一日、晴れの米寿の祝を返上し、村内の若い人たちの教育振興に役立てて下さいと、村育英会、及び村立、西原小、坂田小、西原中それぞれに十万円の御寄付がありました。

その方は、本村字我謝一九四番地にお住いの平敷ウシさんで、八十八才とは思えない気の若さと情熱にあふれる方。村の将来を担う子供たちのために役立てたらと…今回の御寄付をなされました。

暖かいお志、ありがとうございます。

豊かなくらしと住みよい社会をつくる

郵便貯金――

郵便貯金は、創業以来、常に国民生活に密着し、その経済生活の安定と福祉の増進に寄与しながら堅実な歩みを続けており、一世紀を経た今日、国民のみなさまの厚い信頼と幅広い支持に支えられ、貯金現在高も三十三兆円に達しております。

郵便貯金は、みなさまの日常の経済生活の安定と財産づくりのお手つだいをするとともに、みなさまからお預かりした大切なお金は資金運用部を通じ、財政投融資の主要な原資として各方面に融資され、国民の暮らしに関係の深い住宅、学校、病院及び道路等の建設公害の防止、生活環境の整備、中小企業、農林漁業の近代化など国民のみなさまの福祉の増進や経済の発展に大変役立っています。

沖縄県内においても、県庁はじめ、各市町村に多額の融資がなされているほか、沖縄振興開発金融公庫を通じ、中小企業への融資や個人に対する住宅建設資金の融資など県民の福祉増進に大きな役割を果しています。

西原村でも現在、約六千三百万円の融資を受けており、この資金によってできた施設として体育館や校舎などがあります。

郵便局では、このような郵便貯金の働きを広く国民のみなさまにお知らせし、郵便貯金に対する御理解と御協力をお願いするため、資金運用面で関係の深い沖縄県、沖縄開発庁沖縄総合事務局など各種の機関の協力を得て、毎年十月中を「豊かなくらしと住みよい社会をつくる郵便貯金月間」とし、全国で実施しています。

また、この期間中の十月二十四日から三十一日までを「郵便貯金週間」とし、日ごろ御利用いただいているみなさまへの感謝の意を表すため、各地の郵便局でいろいろな行事を実施します。

郵便貯金に対するいっそうの御理解と御支援をお願いいたします。

西原郵便局（五―五三〇九）

昭和五十三年版沖縄県民手帳

―予約募集中

県民に親しまれている県民手帳五十三年版が発行されました。

この県民手帳は、沖縄県および県内市町村、各都道府県のすがたを数字によって表わし、また日常生活に役立つ最新の資料や知識も収録してあるのが特徴です。

会社、学校、市町村等で広く愛用されていますので、早めに御申込み下さい。本村内は村役場、企画課で申込みを受けています。

電話五―五〇一一

11月6日 午前9時――第2回村民運動会 西原中グラウンド